

奈良県感染症情報

平成 27 年 第 28 週 (7 月 6 日 ~ 7 月 12 日)
 奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 小児科外来情報
- 保健研究センターだより 今シーズンの手足口病について

手足口病警報発令中です!!

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	手足口病	15.71	(7.74)	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑
2	感染性胃腸炎	2.71	(2.41)	↘	→	↘	↓
3	ヘルパンギーナ	2.24	(1.00)	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑
4	A群溶連菌咽頭炎	1.79	(1.21)	↘	↘	↘	↓
5	伝染性紅斑	0.68	(0.26)	↑	↑	↑↑	↓

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの変化 **↑↑急増**、**↑増加**、**↗やや増加**、**→横ばい**、**↘やや減少**、**↓減少**

◆ 県内概況 ◆

警報発令中の手足口病は、県全体で報告数がほぼ倍増し、過去 10 年の平均を大きく上回る規模で大流行しています。これまでの手足口病より水疱が大きい症例などが引き続き報告されています。また、ヘルパンギーナも増加し、今後さらに増加すると予想されますので、手洗い、うがいの励行、タオルの共用は避ける等の予防を心がけてください。また、前週は減少傾向にあった A 群溶連菌咽頭炎および伝染性紅斑は増加しました。感染性胃腸炎は、今週もロタウイルスによるものが基幹定点より 1 例報告されています。

そろそろ夏休みの時期です。期間中に海外旅行される方は、国内だけでなく海外で注意すべき感染症について情報収集し、感染予防に努めましょう。

❖ 小児科外来情報 ❖

北部地区(矢追医院)

手足口病の大流行が続いています。7月前あたりより水泡性発疹の性状が赤く扁平にちかいものから隆起が目立ち四肢ばかりでなく口のまわりにもみられ、原因ウイルスが変わってきたようです。口内炎と高熱だけのヘルパンギーナもそろそろ増えそうです。発熱と激しい咳がでてくるマイコプラズマを疑わせる気管支炎も目立ちます。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

手足口病が保育所・幼稚園で大流行中。
 幼児が多いが入所・入園なく同胞もない乳児もある。学童では少ない。子供から罹患の成人もある。
 高熱・ヘルパンギーナ様咽頭所見から1~1.5日後、ほぼ解熱した頃に膝あたりから小さな発疹が確認されその後様々な発疹が出現する経過が多い。
 発疹は、四肢に典型的な水疱が出る場合でも、大腿から下腿全体、一部臀部に粟粒から米粒大の水疱を伴わない発疹が密集し2種類の発疹の様相を呈する例も多い。
 四肢の水疱が大きく数も多い数例で CA6を疑い分離依頼中。
 やや年長児で、熱なく咽頭所見も殆どなく膝などにごく小さい類似の発疹が散在するタイプのやはり手足口病あるいは CA 感染と思われる例もある。
 その他感染性胃腸炎が少し流行性中。

南部地区(県立五條病院小児科)

手掌・足蹠・口腔の水疱が乏しく、前腕・下腿に多数の水疱や発赤が出現する手足口病が増加している。熱も1~2日みられ今夏2度目の手足口病罹患者もいた。別タイプと思われる。
 夏カゼに関連した胃腸炎やヘルパンギーナも多い。

❖ 定点把握感染症報告状況 ❖

平成 27 年 第 28 週 7 月 6 日 ~ 12 日

保健所別報告数	奈良県		北部		中部		南部	
	奈良市	郡山	中和(東)	中和(西)	内吉野	吉野		
インフルエンザ定点数	54	11	16	11	11	2	3	
インフルエンザ								
小児科定点数	34	7	10	7	7	1	2	
RSウイルス感染症								
咽頭結膜熱	6 (0.18)	1 (0.14)	2 (0.20)	1 (0.14)	2 (0.29)			
A群溶連菌咽頭炎	61 (1.79)	7 (1.00)	31 (3.10)	4 (0.57)	18 (2.57)		1 (0.50)	
感染性胃腸炎	92 (2.71)	13 (1.86)	39 (3.90)	14 (2.00)	25 (3.57)		1 (0.50)	
水痘	10 (0.29)	5 (0.71)	1 (0.10)	2 (0.29)	1 (0.14)		1 (0.50)	
手足口病	534 (15.71)	93 (13.29)	186 (18.60)	137 (19.57)	89 (12.71)	7 (7.00)	22 (11.00)	
伝染性紅斑	23 (0.68)	2 (0.29)	14 (1.40)	4 (0.57)	3 (0.43)			
突発性発しん	23 (0.68)	7 (1.00)	4 (0.40)	8 (1.14)	3 (0.43)	1 (1.00)		
百日咳	1 0		1 0					
ヘルパンギーナ	76 (2.24)	8 (1.14)	41 (4.10)	13 (1.86)	9 (1.29)	2 (2.00)	3 (1.50)	
流行性耳下腺炎	4 (0.12)		2 (0.20)	1 (0.14)	1 (0.14)			
眼科定点数	9	1	3	2	2	0	1	
急性出血性結膜炎								
流行性角結膜炎	10 (1.11)	5 (5.00)		4 (2.00)			1 (1.00)	
基幹定点数	6	1	2	1	1	1	0	
細菌性髄膜炎								
無菌性髄膜炎								
マイコプラズマ肺炎	1 (0.17)				1 (1.00)			
クラミジア肺炎								
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	1 (0.17)	1 (1.00)						

❖ 全数把握感染症報告状況 ❖ ()は保健所別内訳

1類感染症	
2類感染症	結核11件(奈良市1、郡山4、吉野2、中和4)
3類感染症	
4類感染症	デング熱1件(中和)
5類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌感染症4件(奈良市1、中和3) 急性脳炎2件(郡山1、中和1) 梅毒1件(奈良市)

❖ 第28週のトピックス ❖

◆夏休み期間中における海外での感染症予防について(厚生労働省)

http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/travel/2015summer.html

※平成27年2月16日より桜井保健所と葛城保健所は統合され中和保健所となりました。
旧桜井保健所分は中和(東)、旧葛城保健所分は中和(西)として集計しています。

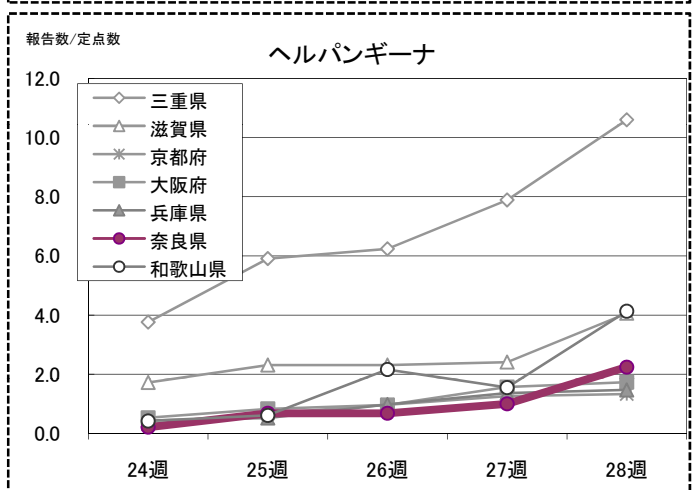
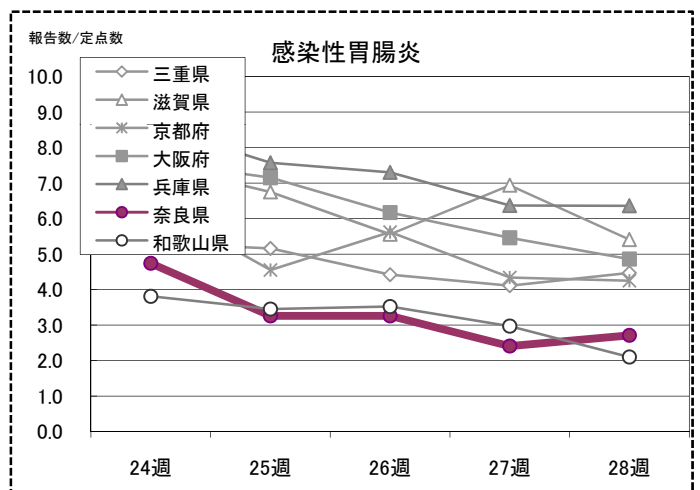
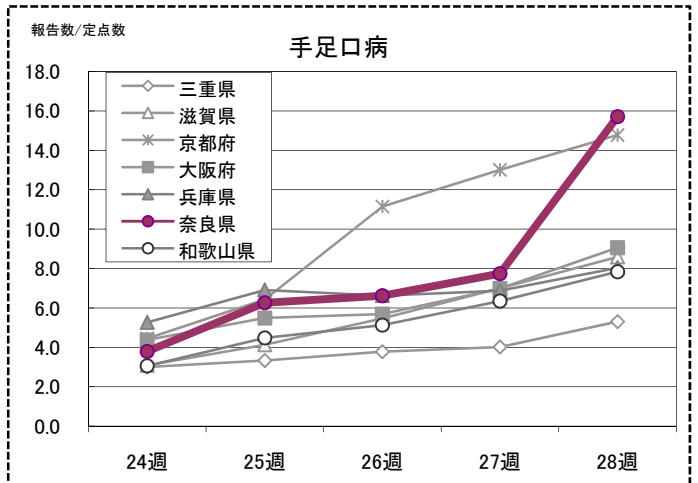
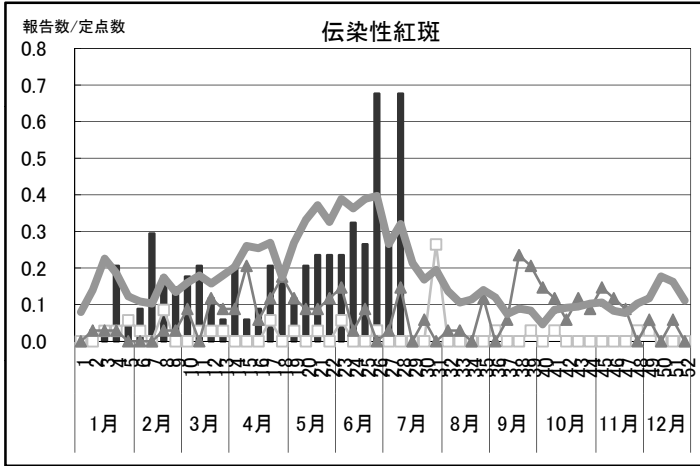
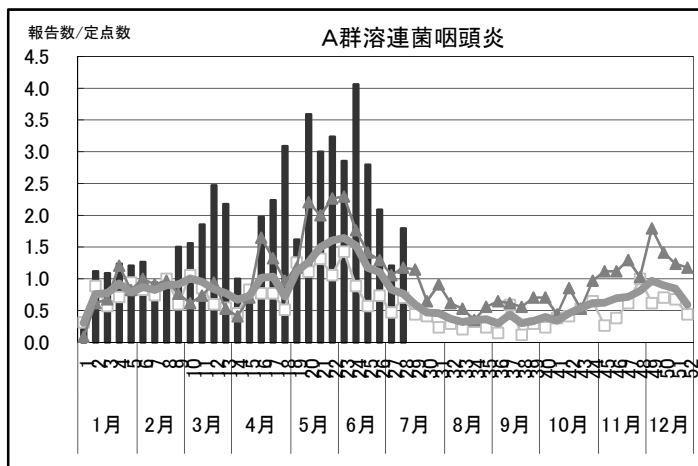
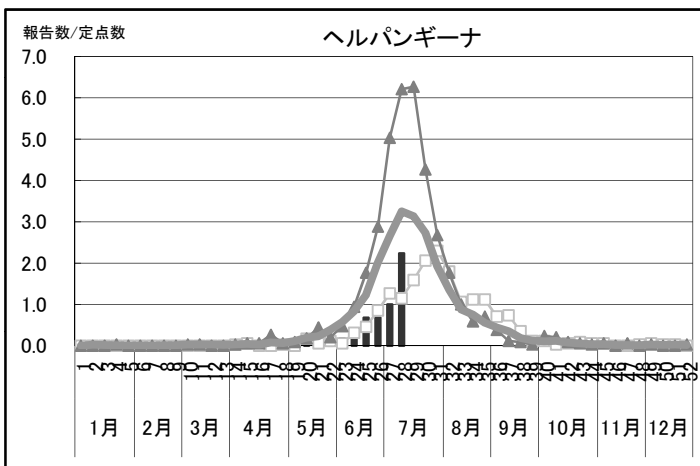
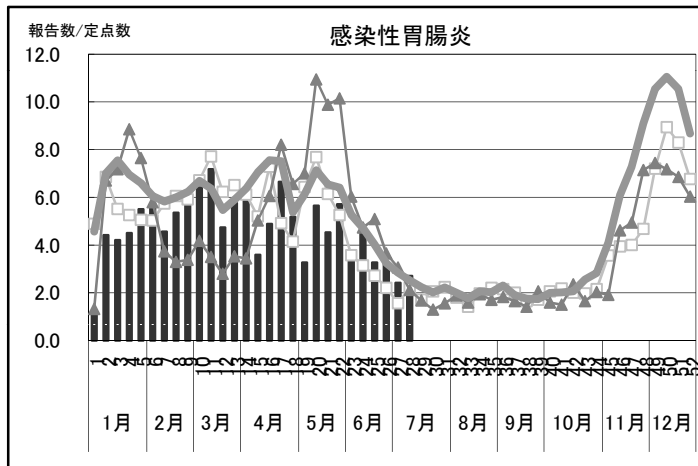
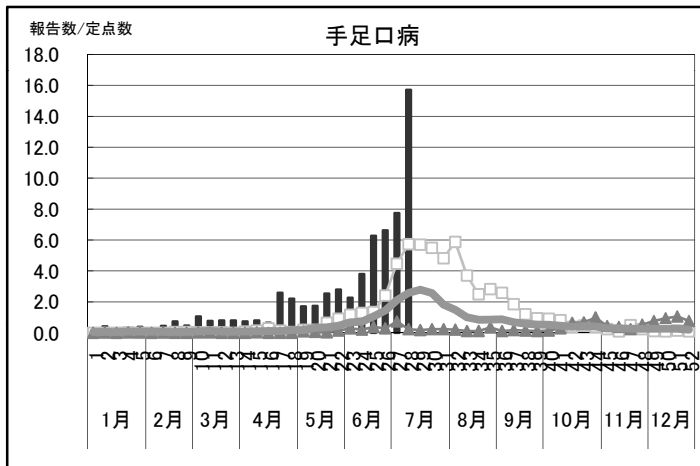
上段 : 報告数
(下段) : 定点当たり報告数 報告数÷定点数

年齢別報告数

年齢区分	年齢	0-5M	6-11M	1歳	2	3	4	5	6	7	8	9	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-	合計	累計
インフルエンザ	男																						3975
	女																						
RSウイルス感染症	男																						198
	女																						194
咽頭結膜熱	男			1	1	2																	4
	女		1	1																			2
A群溶連菌咽頭炎	男				1	7	4	8	5	6	4	3			3								41
	女				1	1	4		1	1	3	1	3	1	4								20
感染性胃腸炎	男		6	7	3	3	1	7	4		3		9		8								51
	女		4	5	2	7	2	2	4	1	1	1	5	3	4								41
水痘	男			2	1		2																8
	女			1					1														2
手足口病	男	3	17	94	51	43	27	17	7	6	1	1	2		2								271
	女	3	23	98	38	39	22	15	5	8	1	4	2		5								263
伝染性紅斑	男					3	2	3	1	4	3		1										17
	女				1	1					1	2	1										6
突発性発しん	男		7	4	1																		12
	女		5	5	1																		11
百日咳	男																						3
	女												1										1
ヘルパンギーナ	男	1	4	13	12	5	3	3				1	1										43
	女		2	11	3	7	4	3	2			1											33
流行性耳下腺炎	男					1																	1
	女					1	2																3
急性出血性結膜炎	男																						2
	女																						2
流行性角結膜炎	男													1									4
	女													2		1		1	1	1			6
細菌性髄膜炎	男																						3
	女																						4
無菌性髄膜炎	男																						1
	女																						1
マイコプラズマ肺炎	男			1																			1
	女																						6
クラミジア肺炎	男																						1
	女																						60
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	男																						1
	女			1																			47

❖ 注目疾患の動向 ❖ 全て定点当たり報告数

■ H27 ▲ H26 □ H25 〰 過去10年平均



今シーズンの手足口病について

手足口病の原因ウイルスは、主にコクサッキーウイルスA群16型（CA16）やエンテロウイルス71型（EV71）ですが、2011年以降、コクサッキーウイルスA群6型（CA6）を原因とする流行（2011年、2013年）がみられるようになりました。奈良県でも2011年、2013年に手足口病患者からCA6を検出しており、2013年の流行では2011年以降に生まれた抗体がない2歳以下から多く検出しました。

〈奈良県の患者報告数推移〉

今シーズンの流行状況は、図に示すように過去10年で最も早期に患者報告が増加しており、第25週（6月15日～6月21日）には定点医療機関当たりの患者数は6.26人となり、警報が発令されました。

〈病原体検出状況〉

感染症発生動向調査で4月から6月末までに手足口病と診断された、27件の検体提供がありました。現在までに判明したウイルスは2種類で、4月と6月1週までに採取された検体からはCA16を5例、6月1週以降に採取された検体ではCA6を5例、CA16を1例検出しました（表）。

国立感染症研究所の7月8日現在の集計によると、全国でもこの2種のウイルスによる検出報告がほとんどです。検出数はCA16が全体の約7割を占めていますが、CA6の検出数も週ごとに増加しています。

〈患者情報〉

検出した8例のウイルス種別の患者平均年齢は、CA16が2.8歳、CA6が1.8歳となっています。発熱はCA16が平均38.2℃、CA6が39.6℃とややCA6の患者で高い傾向があるようです。

CA6を検出した患者の臨床症状では、「従来の手足口病に比べ発疹・水疱が大きい」「耳に水疱様発疹」などの報告を受けています。また、罹患後に手足の爪の剥離がみられる症例が国内外で報告されており、県内でも同様の症例が確認されています。

手足口病をはじめ多くのウイルス性疾患では、流行するウイルスは年ごとにより異なるため、病原体サーベイランスによりウイルスを検出し、流行状況を把握することは重要です。

今後とも奈良県感染症発生動向調査にご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

図. 手足口病の定点当たり患者報告数（H17～H27）

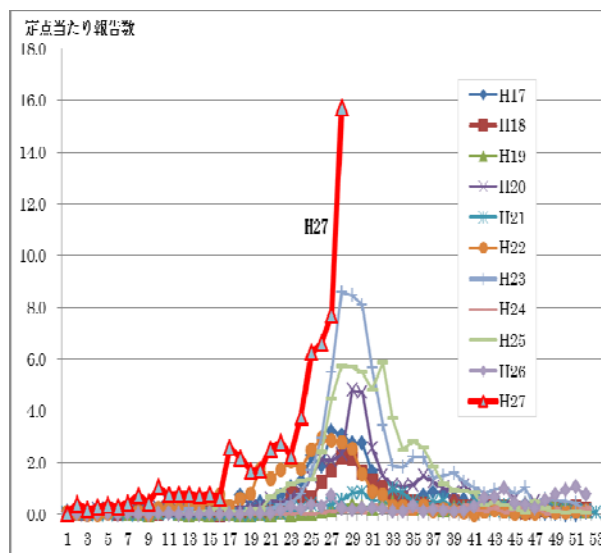


表. 手足口病患者からのウイルス検出状況

年度 病原体	2011	2012	2013	2014	2015
CA6	8		14		6
CA9		1			
CA16	2			5	5
EV71			7		



（ウイルス・疫学情報担当）